

02. 屋久島

屋久島の森

鹿児島市から南に約135km、太平洋と東シナ海に面した洋上に浮かぶ屋久島。島でありながら、標高2,000mに迫る峰々を擁し、海岸線から山頂まで日本全体の自然植生が垂直に分布、原始的な天然林には樹齢数千年にもなるスギの巨樹が生育する。

古くから屋久島の山々は神々が暮らす場所とされ、信仰の対象になってきた。その稀有な自然環境と生態系が評価され、1993年に日本初の世界自然遺産として登録。樹齢2000年代から7200年とも言われる縄文杉をはじめ、九州最高峰の宮之浦岳(1,936m)、苔むす森が広がる白谷雲水峡など見どころが多く、多様な島の自然を楽しむことができる。



紀元杉

水と暮らし

ひと月に35日雨が降ると言われる屋久島。硬度約10ppmの超軟水の水は、驚くほど甘く、まろやかで美味しいと言われている。

また、その豊富な水を活かして60年以上前から水力発電を行ない、ほぼ自然エネルギーだけで電力を賄ってきた。水に恵まれた島の「自然と人の共生」の姿がここにある。



自然との共生

雨がもたらす豊かな水が屋久杉の森を育み、湧き出す水は140もの川を流れ、屋久島に生きるものすべての命の源となっている。

ヤクシカやヤクシマザルなど、屋久島に固有の動物たち、また、鳥や昆虫にも屋久島でしか見られないものがある。

驚異的な屋久杉、固有種や絶滅の恐れがある動植物など、珍しく美しい自然に囲まれた屋久島の暮らしは、日本だけではなく、人類の宝として認識されている。

